育成を目指す資質・能力を中心とした教育課程の展開

特別支援教育を中心として

福本　徹
（国立教育政策研究所・((独))国立特別支援教育総合研究所）

KEY WORDS: 資質・能力　教育課程　実践校分析

１．はじめに

本年４月に『特別支援学校幼稚部・小学部・中学部学習指導要領』が告示された。『特別支援教育部会における審議のまとめ』では、「今回の学習指導要領等の改訂が目指す、①教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化に視点を向け、柔軟に受け止めていく「社会に開かれた教育課程」の考え方、②育成を目指す資質・能力についての基本的な考え方、③課題の発見や解決に向けた主体的・協働的な学びである「アクティブ・ラーニング」の視点を踏まえた指導方法の充実、④カリキュラム･マネジメントなど、初等中等教育全体の改善・充実の方向性は、特別支援学校においても重視することが必要である。」として、資質・能力についての基本的な考え方を小中高等学校と同様に重視すべきことが述べられている。また『答申』においては、「資質・能力の三つの柱など、育成を目指す資質・能力についての基本的な考え方を、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校において共有することで、子供の障害の状態や発達の段階に応じた組織的、継続的な支援が可能となり、一人一人の子供に応じた指導の一層の充実が促されていくと考えられる。こうした方向性は、障害者の権利に関する条約に掲げられたインクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、子供たちの十分な学びを確保し、子供たちの自立と社会参加を一層推進していくためにも重要である。」（p.43）とあり、新学習指導要領において育成を目指す資質・能力についての基本的な考え方は学校教育全体として同一であることがわかる。

２．本稿の目的

このように資質・能力の育成が今次改訂のポイントであるが、本稿では，資質・能力の育成に特色のある学校の事例について,筆者らが直接に触れた事例の中から報告する．以下，順を追って述べていくが，学校名は仮名としているが了承いただきたい。

３．事例

3.1 A 大学附属特別支援学校

児童・生徒に育てたい資質・能力の整理とそれらを育むための授業づくりなどに取り組んでいる。資質･能力は「基礎・基本」「主体性」「思考・判断・表現」「人間関係」の４つに整理し、資質・能力（汎用的能力）と学習内容を学習活動でつなぐための授業計画シートを作成し、実践で用いた。しかしながら、汎用的能力に関する捉え方が教員によって様々であったり、学習活動の設定が難しいとの課題が浮かび、授業計画シートは学習活動と資質・能力を一体化した形式へと変更を行った。小学部算数科「いろをさがそう」の単元では、赤・青・黄の３色の丸・三角・四角の図形板を使って色や形で分類を行い、小学部第２段階(3)の学習内容と、主体性、および思考・判断・表現を育成するものである。

3.2　B 大学附属小学校

「未来創造型の資質・能力の育成」として３つの資質・能力を定めた上で、資質・能力の育成にふさわしい領域を構想し、各領域における学習内容を設定している。
領域「生き方」では交流および共同学習を行っている。「自分とくらし」では共に遊ぶことで、創造性のうち実践的態度、協働性のうち相互理解、の 2 つを中心に、「自分となかま」では共に仲間として創る活動を考えることで、協働性のうち他者尊重、向上性のうち意思決定、などの資質・能力を育成している。「生き方」では、人と対象の関わりから学び、自己形成を図るために、自分らしさに気付き・守り、生き方の幅を広げることをねらいとした領域である。

3.3 C 大学附属特別支援学校

「学びを深める姿を目指した授業づくり」に取り組んでいる。ここで「学びを深める姿」とは「学習活動に楽しさや良さ、大切さを感じ、取り組みたいことや取り組むべきことを思い描き、進んで取り組み続ける姿」である。学びを深める姿の例としては、高等部社会生活の単元において「予算の中で買いたいものに優先順位を付けながら工夫して買い物をする姿」といったものである。また、単元の目標としては陽に示されていないが、同じ単元の弁当作りをする実践の中では、自分なりに想定した場面や心身の状態にあった食品を選んだり、主食・主菜・副菜の割合を考えて料理を選択するなど、実質的に思考力の育成を目指したものとなっている。

3.4 D 区特別支援教育研究部

特別支援学級において、ICT 機器（iPad）を活用した学習を平成 26 年度から行ってきた。中学校知的障害特別支援学級家庭科「ピザトーストで朝食を作ろう」を通して、基礎的・汎用的能力の育成を目指す。初めて作る料理でも ICT 機器を見ながら主体的に学習し、完成させることができた。また、わからない点は動画に戻って確かめることで、技能の習得を確実なものにしている。また、授業の終末段階では振り返り活動として、今日の授業で何を学んだかを生徒が自分の言葉で発言することで言語化し、メタ認知能力の育成を図っている。

4.まとめ

この他にも、例えば、E 県立 F 支援学校では、育てたい「資質・能力」と指導目標・内容の構造化をめざして、内容・手立ての明確化や教育課程改善に資するような研究を行っている。資質・能力の育成は、これまでも「つけたい力」の育成として行われてきたわけであるが、思考力・判断力・表現力をどのように育成するかが鍵となろう。

参考文献

A 大学附属特別支援学校（2016）研究紀要第 21 集
B 大学附属小学校（2017）研究紀要第 47 集
B 大学附属小学校（2016）研究紀要第 46 集
C 大学附属特別支援学校（2016）研究紀要第 39 集
D 区特別支援教育研究部（2016）研究紀要（目的）

(FUKUMOTOE Toru)